



これまでの「私のファッション学」では、日常の服飾に直ちに活かせるような、視覚的、実践的図書を紹介し、それを用いてのファッションセンスの研鑽や、それに伴う図書館の利用促進を図ってきました。今回は、ファッションにおける考え方を拡張するための、文脈的、理論的図書を紹介し、異なる手段からあなたの「ファッション学」へアプローチを試みます。とはいいつつも、この類の文献は数が少ない上に、これまでの寄稿者が美的センス甚だしいファッションistaの方々でしたので、大変恐縮しております……

服飾ブランドそのものへの印象、とりわけ先入観は、時にあなた自身の「ファ学」の発展を妨げます。その典型例として、ハイブランドを挙げてみましょう。高品質・高ステータス・優れたデザイン性・長い歴史が、ハイブランドに抱く主な印象でしょう。決して安くはない価格に見合った価値を感じ、ハイブランドを溺愛されている方も少なくありません。『墮落する高級ブランド』¹では、ファッションジャーナリストである著者が、我々の抱く印象と大きく乖離したハイブランドの実態を曝露します。自らにあって然るべき哲学を忘れ、資本主義の潮流に便乗したにも拘わらず、未だ消費者に対し欺瞞に満ちたプロパガンダを吹聴するハイブランド業界を「墮落した」と捉える本書は、皮肉にも、これからのハイブランドのあり方を記しているようにも見え、二律背反のようでまさに痛快です。単純な現状批判のみならず、ハイブランド市場の変遷をも辿っていける本書は、間違いなくあなたのハイブランドへの先入観を打ち砕き、新たな印象をもたらすでしょう。

服飾は、当然ながら若者文化に大きく関連しています。「ジェンダーレス」は、最近の若年層のファッションムーブメントの一例といえます。私も、決してユニセックスでない女性向けの衣服を好んで着ますし、本学の今年度の卒業

研究や卒業論文で、社会科学的見地からそれを取り上げている方々もいます。「ファ学」が様々な場で取り沙汰されるのは、ファッションにおける考え方を拡張する一助となるので、大変喜ばしいことです。『ストリートファッション論』²では、それらのファッションムーブメントは「自然発生」的であることを、つまり、それらが文献からではなく彼らの生活空間である街なかから生み出されていることを、現代ファッション史を辿りながら示しています。戦後からのファッションが概括的に捉えられているので、ファッション実践派の方も無理なく読めるのではないのでしょうか。『ファッションは語りはじめた』³では、文献不足なそれらのファッションムーブメントを有識者が考察、言語化し、ある程度の定義付けを試みています。掴みどころのないそれらが本書によって一応の着地点を得ているため、ファッションに関する自らの考えを、内容を通して一旦整理することができ、その考えをもとに、自分なりのファッションやそのイメージを掴むことができるのではないのでしょうか。

ファッションへの先入観をなくし、教養としての現代ファッションを知り、有識者の意見をヒントにしながら、自分だけのファッションを探っていく。図書を活用するのみで、この限りでは実践のかけらもありますが、とりあえず衣服を購入しとりあえず袖を通すその前に、この思考ルーチンを「実践」することによって、自分がしたいスタイルがイメージとして形作られていくはずです。これまでの「ファ学」で紹介された図書は、形作られたそのイメージを具現化させるための、良い指南書となるでしょう。

これからも、図書館があなたのファッションの助け舟となることを願っています。

おすすめ文献

1. ダナ・トーマス 著、実川元子 訳
『墮落する高級ブランド』
(講談社)
589.2 || Tho
資料ID : 535548
2. 渡辺明日香 著
『ストリートファッション論：日本のファッションの可能性を考える』
(産業能率大学出版部)
383.1 || Wat
資料ID : 560004
3. 西谷真理子 編
『ファッションは語りはじめた：現代日本のファッション批評』
(フィルムアート社) [ベストセラー]
593.04 || Fass
資料ID : 558821

さかね のあ (キャリア英語科1年次生)

